俳諧一葉集

三

へ 5
4393
3

門へ5
4393
巻3

昭和九年
文月二日
購求

俳諧一葉集　附合之部二

古學庵佛子　編
幻窓湖中
坎窩久臧　校

貞享元甲子歟

荘白赤枯の芳竹雪ふれば　菊
たそやとぶる望れ山茶花　野水
雪の主水風仏ゆきて　若子
うしろ姿をうつす　東　重五
幼解のかうすの白ひ子　杜國
白のうて（て沖て朱を　芍　西平

ウ

赤尾八郎兵衛子ひろうと
髪をやすり写をまねのふみの
伝れつゝと気をもみ十さと
清吹卒塔すこしと法
かけ浮れ時さふく火を焚て
何ゝ八釜子角之　春
田中寺小まんら板前こゝ
寺子舟ひく人八ちんゝの
たゝの枕を枝子後ゝ有御
味さゝ　き河ゝ　ゝ
二の尼子迫情の花の伝ゝ
塚八筆子とさゝ味ゝむ

水　五　水
翁　号　玉
翁　号　水
玉　五　翁

二

ゝ物すすれすく新鄙多体
今ゝうゝみの矢をもゝり春
ぬす人ハ迫今の杜ハ吹きれて
さハ家稚の名を付　色
笠ぬゝて寺経もぬしか時面
ゝゝれゝ名ゝ　ゝ　ゝ
さゝ　と砕　八人の骨の母
鳥鐵八夷ハ五ハゝゝ
あゝれすゝ徒ゝ俤ゝ多ゝ
秋水一斗ゝ蒔ゝ了
日東の李ハ白ゝ坊ゝ身を尺ゝ
仲子本稚をゝゝむ裂毛

五　五　号
玉　五　号
水　号　翁

ナ
うしの跡とふらふ草の夕くれに　蕉
箕に鮗の魚をいたゝき　国
わか祈あけかたの星孕へく　兮
けふはいもとのまゆかきにゆき　水
綾ひとへ居湯に志賀の花漉て　五
廊下は藤のかけつたふ也　正

かりへとも壮年の家をふるふ
はつ雪のことしも袴きてかへる　野水
霜にまた見る蕣の食　杜國
野菊まて尋ぬる蝶の羽おれて　蕉
うつらふけれと車ひきけり　荷兮

庭そら月袖に鞨鼓をならすらむ　重五
桃花を手折貞徳の富　正平
ウ
雨こゆる浅香の田螺ほり植て　国
わくのきさし紀を只活すなる　水
床文字絆枝ハいとこなる男　兮
緑きまたけのうしみ騒かし　蕉
口をしめ扇をとらする力なし　五
ゆふされかゝも手首おとりきん　水
小三なりきゝつゝきしを一ふとひ　蕉
月をそきつれ牡丹ぬすむ人　国
滝あみのかゝりハ碑れ聖蕉へ　五
こハしゝのみ坑にはきする所　兮

秋もの幸くや嫁せいの矢
先ふくらけ春てかくゆき　水
格笠ゝ餅すゆ宴ゆのうち　芳
うちひま越よ残留ともて　翁
簾涼く櫛を梅の華さひし　水
三孫一ゝん不殺の耳人　丘
芝ゝて美濃ゝ寿を寿る　翁
紙さ先しれさゝ七十　岳
寿加ゝ法事ゝ寿ゝ　丘
ひゝの傘のいとゝさ　芳
蓋代ゝ餅のまゝ舟　岳
寿ゝ寿ゝの寿新を　水

有ゝたゝる猫の髪の赤のかさ　芳
忘きぬ猫ゆ涼を　翁
秋惜は寿ゝ春きく鄙さハ　水
蓋の宴つゝ寿ゝ寿ゝ　丘
被ゝ祝を山ゝ山ゝ　翁
ひゝゝハ典仕の唐う内仕の　岳
三うの毛鄙歌尾長れう軍　丘
しうみいゝも越の猫侍苔　芳

杖をひゝゝ寿ゝ十歩　杜国
仕ゝみうひゝ寿ゝ霽小
ふみ仙く　重丘

野水　菊
菊子
正平
五
玉
菊
水
玉
子
五
水
菊

子　菊
五
玉
菊
水
玉
子
水
五
子
菊

ゆき人と移りし椿子飲はさん　五
けしのひとへにかるをとはなす舞　風
三日月の東まて〳〵薄の菊　翁
秋湖遊子影うつす春　水
二宵よりをゆるしてゆ角を寂さる　風
ありよおに念仏数を隔る　兮
鶏うまれ行燈けしに起侘て　水
わかひとつも荻の常引　五
こゝのれ嬉し日もりの落葉入　兮
母君みはまもあはれしく　翁
難波津にゆへし火くしかるれ

すゝけよれと　重五
男さし寄の神のつぼあめてのつぬ　荷兮
人の粧ひを鏡磨寒　杜国
花薄高貴の前ぞ咲そむ　野水
二鶉見る壁比月の半うるし　翁
風吹ぬ秋の日難子酒なまぬ　羽笠
荻織笠を市に振する　兮
ウか萩川や麻の代恋激きみ　五
いそうくの葺なしの清　水
男ふくき布搗高く吹れて　風
りたそ二十をこゆる三平　笠
捨るきくくのきもの影ある

火[illegible]ぬ火焼[illegible]人を[illegible]む　菊正
門[illegible]の[illegible]て[illegible]て[illegible]の　正
血[illegible]く[illegible]く[illegible]の[illegible]て　号
方下[illegible]本郷の[illegible]七[illegible]　玉
[illegible]　和
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　宝
偽もの[illegible]歌[illegible]の[illegible]　号
白蓋[illegible]の[illegible]　正
宣有[illegible]く飯を[illegible]る　水
八十[illegible]三[illegible]尺[illegible]壹毎[illegible]　玉
[illegible]七[illegible]の妻　宝
厚[illegible]桂の[illegible]つ[illegible]む時

[illegible]ト木[illegible]　菊
時の[illegible]女尺[illegible]　正
[illegible]の[illegible]　号
[illegible]に[illegible]　玉
[illegible]の[illegible]　水
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]き[illegible]の地　宝
[illegible]人の[illegible]　号
[illegible]の[illegible]の[illegible]　正
[illegible]　水
[illegible]　菊
[illegible]　宝

綿ゝ見るに首をさむる村雨　国

田家眺望

霜月や鸛のつくつく並ひゐて　荷兮

冬の朝日のあはれなりけり　翁

樫檜山家の体を木葉降　重五

ひきずる牛の塩こぼれつゝ　杜国

音もなき具足に月のうすうすと　羽笠

酌とる童蘭切にいて　野水

ウ 秋のころ旅の御連歌いとかりに　翁

やうやくはれて不二みゆる寺　荷兮

寂として椿の花の落る音　杜国

茶に糸遊をそむる風の香　五

一 雉追に烏帽子の女五三十　水

庭に木曽作るこひの薄衣　笠

夏深き山橘に桜見む　兮

麻かりといふ歌の集あむ　翁

江を近く独楽庵と世を捨て　五

我月出よ身は朧なる　国

旅衣笛に落花を打はらひ　笠

籠輿ゆるす木戸の山守　水

二 肩を見て小き涙みあふれて　兮

乞食の簑をもらふしのゝめ　翁

泥の上に尾を引鯉を拾ひ得て　国

佛壽寺遊むかしのみくさ　五
佛寺遊むかしの小角豆のもとゝし　水
豆腐まさしに炭茶つく白　笠
芋屋の小坊まつ芋もきさ　芋
打る音の寒さうなるのみ　菊
鄙さる飯豆のたくあの家　五
寒ねく狐鳴やうふしき　玉
物柿ゝ屋根ゝ瓦ゝ庭　笠
豆鼓つゝゝ毎の表ゝ入　水
元旦の高丸鏡も彼めし　菊
俳兄木陽の詩をもつ　芋
いろ海ゝ男猫ひとつを抱ゝ　玉

書の志ゝすれもゝ稿をよふ　五
ゝ干を乗るの聖わゝゝ　水
山茶色白ゝ笠ゝの赤ゝし　笠

同　雨笠

いろゝ尺ゝとゝゝゝ生をあゝ屏　芋
樗火ゝ海ゝ　枯　京の　松　菊
木鐵ゝ下ゝゝ髮を茶釜ゝ　重五
檜笠ゝ言を厄ゝ多雪　杜國
銀ゝ蛤かゝん有ハ海　菊
ひゝに橋をゝすゝ改阜山　野水

同年臘月十九日　菊

海苔の野の春の雪白し　鶴　桐葉
串に鮒をとめふる　東藻
二百年系図山を取る　工山
椿の種まく杉を植ゑる　紫
入月や影は雲にもれゆく　菊
雪をかぶれる山の姿　山
一輪咲くし苔の道　菊
棋の工夫二ねとらしる貝をゆく　菊
月や降るとも松ふくなり　紫
霜枯るる河原に雲の宝　菊

蕎麦をけづる松の入口　山
笠ぬぎ衣の砂雄つる石　紫
秋の鳥の人なつかしゆく　菊
をちこちの聖多の淀八月陸　山
寄れ雲千詠をもたく　菊
おくもる石の扉を松しひき　紫
美人のかしらあむ砂雪　山
二　城夷の舞形を墨を俵　菊
生海鼠かまうる油はめれる　菊
木戸ゆる雨千海苔の雄さらく　山
藪千屑砂の十をうしゆ　菊
ちつくと蛇孫化る紅父ひる　菊

[illegible]　菊

不二の根と見えて[illegible]のうちむ　山

富士の山く郭のひとつ　紫

[illegible]を見ひらす牡い　菊

[illegible]くしみ姓菊の戸を押　山

月向くみ計のひき八ゥ[illegible]　菊

[illegible]いそくきえうの　菊

彼れるる異見を為て作りける　紫

[illegible]の野[illegible]て作りて　菊

紅葉の[illegible]紙の[illegible]を絞り　山

ちひさい[illegible]の永むらの伽　紫

[illegible]の新菊[illegible]本て

[illegible]す菊の根　菊

[illegible]の[illegible]秋の[illegible]　雷枝

[illegible]の[illegible]の[illegible]　菊

[illegible]の[illegible]の[illegible]　鰐延

[illegible]の[illegible]　菊

[illegible]の根[illegible]拾ひむ市紫の[illegible]　啥山

すゝきうゑ雲は蛙　四十一　翁

雲をおもふ松のゝ板橋をえをゆ　如行

古人のゆゝしれ秋の木のうし　翁

翁義淵法師こゝへとゝまれハ

檜笠をきをいのちのやゝ冷　桐葉

稲一つゝる足ゆゝみゆく　翁

きのゝゝさく桂を鮮ゝるゝやゝ雨　翁

きゝひゝゝる　桂源　大根　桐葉

ゝをさく後ゝ雨ゝ雨ゝ　翁

あ雲ゝ炭を吹おこす　閑水

ゆゝしと猿蓑ゝ雨ゝ多ゝ来ゝ　東籬

手のゝゝゝと伯母のせはゝき　桐葉

氏海ゝ笠雛　杵ん笠ゝゝれ　翁

むくゝゝひゝき波のかゝ　檐　桐葉

木枯ゝ秋ゝ瓜のゝゝ付ゝ　東籬

[illegible] 叩端
[illegible] 如行
[illegible] 工山

[illegible] 木因
[illegible] 菊

貞享二乙丑年
三月廿七日
[illegible] 堂叶 菊

[illegible] 叩端
[illegible] 桐葉
[illegible] 菊
[illegible] 端
[illegible] 葉
[illegible] 菊
[illegible] 端
[illegible] 葉
[illegible] 菊
[illegible] 端
[illegible] 葉
[illegible] 菊

燈火風を吹の江の秋四
川波ゆく雲を角に張りけり　楊
今利と風に散る紅葉の色久し　菊
かしこまり石の清水の花久し　楊
雨打て風を吹とうるる　紫
二　雲よりみく如く　菊
枕　扉風の絵に深くみ　楊
ゆるがせし菊のいろえの色さう　紫
三　枝の舟浪川の秋　菊
尾花やひらく杜鵑を味ひく　楊
花うつろふ竹の葉表　紫
いろ〳〵に時ハ吹矢をわひふる　菊

水汲小侍神ひやうう　楊
身ゆるす歩数ふを　紫
ゆ八花空の絵ん　菊
村雨のうき物ふるの当　楊
ひろ川兎の瓜ゆふ　紫
三　笠尺ゆる人ハ舞ふ　菊
男やもゆの赤ゆて　楊
風ふるき大事の秋の七ゆ　紫
侍門を行く生鯉の麦　菊
岩壁山岩壁ふ動ふ吹て　楊
麦ふる踏る巻浪の秋　紫

同日

つくしと板の如くなる
ひしゝ葉をつゝむ莢の一家　桐葉
多新古神雄の雛を抱くと来る　菊
清多をすゝふる掛軸の月　四端
枕もらき吹をさゝる餅の上　黄口
高の古寺に掛ゝをほる　東篠
鼻就て赤の蓮実を分く　工山
芋の大皆に三軒の隆きく　菊
をゝと幾適の跡の絵と尺と　端
物ゝゆく時れ四区の出　山
新風のひゝきに酒を飲草し　葉
口

佛をきさむ石谷の信　海
鳥羽玉の数きく女芋を来て　端
逸をを伝る新の月の　菊
秋八新只有れ物をひろ　葉
白ゝの古文系五方の海　山
浪ゝまゝ鰐の骨を載く　蔵
波行ゝ新鈔のかゝをふ是　端
二望抱く蓋に立てるやを男　菊
玄章の塔の伊ゝゝゝ　桂楫
鶏鈴の屋と蛙の用を掛ゝて　端
風に多を宣ゝ山の付死　葉
華ゝゝく杵の屋敷を引挽め　山

四条の[illegible]物先[illegible]る　薄
おのづから[illegible]れのくもあつのく　白
[illegible]を[illegible]ぬ[illegible]ひよりの　菊
白のものの[illegible]の[illegible]　紫
おほん帰京[illegible]を占ふ　山
龍胆の赤み寺の月遠く　薄
[illegible]の栗[illegible]行とまつ[illegible]　撫子
[illegible]きさ[illegible]柿の秋の色　菊
[illegible]の[illegible]の尾の[illegible]　山
[illegible]の物[illegible]焼く[illegible]　薄
入[illegible]の江の星二[illegible]　紫
[illegible]ぬ[illegible]花のれく　菊

[illegible]の[illegible]を西行　楫

同　菊

牡丹芍薬を深くさひめる[illegible]の[illegible]
[illegible]身[illegible]の玉[illegible]　桐葉
[illegible]袋[illegible]おうけて　叩鐘
[illegible]　菊
[illegible]まぬ板の面[illegible]　紫
二[illegible]ちうの[illegible]る[illegible]　撫
[illegible]引[illegible]少[illegible]の男同士　菊
[illegible]の人[illegible]　紫
[illegible]の[illegible]　撫

等の寄こされぬくさの通　箔
手ふくさ等の寄の一部ゝ京　紫
からんのうつくしき寄　場
しすくさき寄くさくさ式の屑　箔
祝のくさ　れ今ぬひ〳〵華　紫
うくしくさくさ風の袋ん　場
谷吉風をつくる舟の玉　箔
花袋くをくさくさの角矢袋　紫
菰の泥を寄ます屑袋　場
出代の稲くさけくる物を後　箔
ゝ外のゝ袋ゝくる風出　紫
地雷火ゝ遊を浪の赤ゝ　場

後の掛ゝを寄る　枯物　箔
作正はくくの寄ゝ箱　紫
くくれくくを飯の焚ゝ　場
お菓袋の面くくゝ扇袋　箔
旅の色食の寄る小寄　紫
物寄は後へ初ゝ上敷　場
陸の寄ゝくくの煙敷　箔
場場の一ゝけ寄つる月の寄　紫
風後　新　る寄の白砂　場
桜袋といくゝ川ゝくる併写入　箔
袋ゝくくくを後千古　紫
燈ゝの燈くくゝ一ゝ寄燈酒　場

海さわの松は霧ふかし　菊
花垣子雲の寄紫引殘め　紫
うれも角組まは蝸牛　端

同

柳もしを木ゝやの四角の板柳　菊
京の秋つく頃の麦　東蓼
生のまれ氣をのむ新米　桂楫
かけろふ〻〻〻の竹の海棚　叩端
俊つゝ雲の逃しく角ゝの　相葉
ひゝゝゝけさるまの松　工山
夢さめて淀の天雲を海苔　友

狂歌の作者に成る只この寸
章魚子海を清むむ女ゆの　閑水
おさけの市上の絶うは　楫
笹ゝつ秋の寒尺寒蕎て　紫
ようをる年れきしるゝ　水

同年六月二日東武於石川無行
清風
涼しさの潮ゝくるゝ夕
寄ゝ笹を尺ゝ新月　菊
松風の大ゝ寄寄けくゝ　嵐雪
酒店の秋を降るき　其角
社の事ゝ苔の蝶さくや　才丸

菊塚作く菊を志しく　二齋
ちの花を命いそ　素堂
鐘と花をあれいやうの鉢　芭蕉
老てゝ侍ふ老をたゝく
わきのしとうちやうゝ　雪
戸ウ隠のいい小菊の新　角
の実梨もてあます父の三年　九
実新よくゝやれ自慢の一忘庵　菊
舟ゝ新しいのちはきあり　雪
面をかい切き火はゝ暖　芭蕉
年流れも文を十年　菊
既ゝ人をはさむ　雪

時雨ふく白眼ともはらん　角
映稲苅ゝ月よりよ　九
海猪猪ゝんたのゝ秋　雪
蛙の実は煙筆の芋茎ゝ　芭蕉
くしゝ人をしゝ美婦婦き　雪
花菊ゝ五ちの侍ハ侍ゝ　芭蕉
小系を丸丸山の　雪
三ゝ鯉ゝ小能ゝ料理の　角
ちや魚をあとゝむ　九
氣四の義しい芋ゝ　雪
逝水やゝと拾ぬものハ　雪
白ちのくゝ侍をの十五夜　芭蕉

夫碎硯の更て嘆しき
孫のすゝみうるを喜ぶ
を一息者の保を二羽しら
殘迄も出藩の家を指をれ
き如くの衣裳をうて泣
吟のゆれいつくしの人のさゝやき
古梵のせうに花四をも
ひらゝしみ者孫をうて身を
引教と業をゝをのく番く
武士のものすきまき鐵い
七里法華の七里秋風
図三の霄南山をを化し

菊
雲
角
丸
富
壹
風
菊
雲
角
高
丸

槐の小ら。きゝく紙ゝす
法阿弥の爲ゝ手ゝまの仮屋建
狂女さゝよゝ紙きくゝある
情しゝる多ハ者参の杖ゝ
柳く味ゝ出羽の神
雲角のゝゝゝ
杖ゝ者ゝしのつゝ萩萩
物手此筆ゝ起阿を尋ゝみ
三里ゝすゝ不二ゝゝゝ
庵ゝ地ゝ味ゝ味ゝ入ゝ
書ゝ紙ゝ小ゝ海ゝ
三阿弥ゝゝゝ様位く狭ゝき

菊
壹
風
菊

紙水きよむる五郎入道
悔もさハ上戸も譲るかくこも
おもらもしてしうぞ風の浮ふ藪
伊錬すれ河柳の数ハ竹ましく
入院尺寸の半ら砂ち法
一陽を繁西方角やう来ま
洒横よう〳〵り咲ますや
深度の浮もを知りをあむ
きのふれみしたれ癒ましい
う和幸とふう紀門行をそのめ
名名ゆふ返きこ一ちゆうハ
后の月寿ら入尉むる決

風
菊
雲
角
丸
斎
雪

ちけさきけ五郎の焼米
海の底ハ狂詩つくれ〳〵ゆるむ
恵ら飛ぶ塚ネ〳〵むも
弟雪ハ石西四ら し
小女郎小まん大根戦ら
血もそそく起ハ鶴ら
尺よ米の月ハ河ハ面むき
御河のの板ときこのの新清く
汗涼このし懐ら寄
さ〳〵ら旅宇宙ら紫ゆく
ふらさ〳〵ら小歌の牛山
散花をそむく月ハ月ら

風
菊
雲
角
丸
斎
雪
風
菊
雲
角
丸

ゆるくてつゝん何かしら軒　富
舫して浪にかゝる舟のきしる音　雲
立秋の虹の足ともいふなる　風
きれたるに乳入る魂ハおいしの兆　翁
名
麻布の霜気にふくみきれなげ　雪
ゆるき紫やいなりの鳥た蜜のきゝ　角
文治二年のちのよろ石もとへ　丸
みふれ数保つてあらしと休らむ　富
帰手かよふころゝかるかし　雲
三日月の影西にきえて萩の下　風
秋ハ年のゆきとりけ梢の株　翁
憎出をね　へハへの多ふ神楽　雲

只一眼も花ハ一すゞし　角
特のまゝろきもさすまのダ百言　丸
定家のしれ桃む色まれ　富
任く咲色を八まで尺るそのゝ　雲
梢の鐃入の任ひいやしく　風
ゆるさを踊るへあるたる右　翁
識を惜ぬ不動尊き　雪
あり家てさひしまくらも雑　角
むらゝ立桜て四方静かし　丸
花咲ハ家を近し人やいそぐも　富
きそくしての裏に梅の園　執筆

梅さきのこしきの平野をゆきすれば　菊

板葺を分する井二ッ石ひとり　秋風

名さくら手意さく桜花の陰紫

笑をうしろ山茶の　秋風

月の雲秋の月をきくく　菊

湖春

櫃の木は切りかたらめ酒の肴

家すゐ出をはるふ乙ゐ　菊

秋風

物語をうしし桜今ばな　湖春

春の雪は蚕ゆうつく　菊

巣の中は巣の巣の巣の巣

かりまれの杉をもう紙をす　菊

山ハさくらを役ゐ面　千歩

芭蕉翁の御のけ　知足

文字よ事後すく立三な

笠もしをゆ家の御の志　菊

貞享三丙寅

砌情 残

日の春をきくすのそらに都の塵ぬみけ　其角

元彩のうれをもゆるうぐいすは長閑

古ふるけしきを都の塵にうみて

つくねける紙さくあるうかれ流るる

ふるの紫越野

みきりに　文鼠

貞法光人公服仲雲色ゆるされ侍れ

ども当時は古くふるく系譜をとる

ことよろつ〳〵ふる梅相をくさとさう

本結のまつ尺〳〵結ふ家の梅ふる

けしきて紫ふるもふるもふる梅の家ふるふ

梅の香ふいふんも因しふるふる元彩ふ梅ハ

角あふて本かりしのふ千年ふれもほの

うすかふふ彩ふ角ふふ〳〵ふ尺〳〵侍ふ

仲ふふ〳〵但梅の家ふふふ尺〳〵侍ふ

世のふふ元彩ふふふ附ふふ新〳〵ふ俳

ふふ村ふ梅尺ふ　ゆく梅さふ

生ふの仲長ふふ風体ふ角ふ侍ふ

巻角のふふ〳〵ふ〳〵ふふふふふ梅ふふふと

ゆれハふふふふふふふ不射ふふふふ射ハ画の名

華ふ梅ふふふふふふふ梅ふ尺ふ画ん

梅風

[illegible]の舟の輝さしてもかく狂者の体孤
[illegible]の太体[illegible]赤特と付る附箱
大切し

酒の幔[illegible]入遊の月　コ齋

四白月[illegible]れハ特し[illegible]の箱体酒[illegible]
[illegible]のように[illegible]付る幔ハ[illegible]
[illegible]きけ[illegible]

秋の山[illegible]本れ[illegible]のう[illegible]ん　芳重

特の[illegible]を[illegible]市の特[illegible]実体[illegible]
[illegible]酒[illegible]
[illegible]の[illegible]秋[illegible]を拾
[illegible]

秋の山と大中[illegible]軍[illegible]大切の毛
[illegible]人中を敷[illegible]し
炭かゝ[illegible]の[illegible]　松風

おの白山[illegible]の体[illegible]尺[illegible]て付る[illegible]
[illegible]を[illegible]山特ハ炭竈を拾[illegible]
体[illegible]白[illegible]も炭[illegible]の白仕
[illegible]人の[illegible]を尺付[illegible]新[illegible]白し
里[illegible]の麦[illegible]ほの[illegible]む[illegible]　仙化

附箱[illegible]
[illegible]の体[illegible]付[illegible]畑の[illegible]
[illegible]の体[illegible]付る[illegible]し
[illegible]の[illegible]弱[illegible]面おもひ[illegible]よ　李下

見出家元し侍を付ることもあり
侍めることもあり一里しの麦こいはる
より旅宿を枕をひかむとすなと
うるハ一きようの面を俳一侍る事等
毎日等侍よろ郷

蜂白

彩きこと きこ三面をもあむらをあれハ
うれさしうるのもなくこ仏者の心源
く異ひとうあ人一も格侍し第報
あをもきして面をうひる心海ゆを侍る

朱弦

念仏子 粧の侍いかくうし
出るこ侍の無を侍ひ一ふうこ祇
社会仏者をいもうるものこ家侍の侍祇

あるハ粧侍こ三面八町中を侍る社ちれハ
さ面る里の侍さよくくさと

蚊足

洪きしく麦高の無をさきすハ
麦高の無をさきす階を侍し
度し家人の上をもはるものすこ入
侍をく侍る

五里

かくるおよをもあるむ松の春
ものるる面ろうこ面をこ麦高を麦
軍情を枕ひよをこ

箱

ろ、四の梨 歩島帽子をろ侍る
階松面家を一赤白耳の侍をして又
一白文ひひをこ家を和歌を麦

[illegible]

の姿を目眼を付て尺くし

[illegible]き世付家を富の尺ばかめ　孰華

[illegible]旨を禁中[illegible]付[illegible]旨[illegible]ほ

[illegible]を[illegible]と[illegible]て世を捨と

[illegible]を作[illegible]歌也

[illegible]くまれし[illegible]の本様の表度[illegible]　文鰈

[illegible]八世世世[illegible]

[illegible]八[illegible]酒[illegible]と[illegible]

[illegible]の旨を作[illegible]本様のもの。

[illegible]くまわ[illegible]

[illegible]情[illegible]と[illegible]

[illegible]の旨作也[illegible]情[illegible]

後作女き[illegible]　世角

[illegible]作女[illegible]

[illegible]れ[illegible]

[illegible]方の物生[illegible]

[illegible]旨[illegible]

[illegible]乳をつむ結の[illegible]　コ爾

[illegible]八里水を[illegible]海[illegible]

[illegible]也蟻[illegible]更科[illegible]

[illegible]を[illegible]乳を居

[illegible]女[illegible]

[illegible]の手[illegible]

[illegible]の[illegible]と甲斐の[illegible]の[illegible]　柏原

[illegible]の[illegible]出[illegible]きよう山川のそけしく吟

[illegible]き仏を彫[illegible]仏[illegible]仏[illegible]

法の生系利[illegible]を[illegible]ん　枝原

[illegible]の[illegible]高く[illegible]さきを[illegible]

[illegible]を[illegible]し甲斐[illegible]六古人仏[illegible]

の[illegible]仏[illegible]月[illegible]

[illegible]利[illegible]を[illegible]亜[illegible]新く

[illegible]

[illegible]の[illegible]仏の戸　茅堂

[illegible]

流[illegible]

[illegible]のよう[illegible]かゆるものの[illegible]　李の二

[illegible]の[illegible]を[illegible]

[illegible]を[illegible]に[illegible]人の[illegible]

[illegible]の[illegible]仏[illegible]眼を[illegible]

橋ハ小[illegible]を[illegible]ゆる[illegible]　仙化

[illegible]の[illegible]の[illegible]海

[illegible]の[illegible]を[illegible]の織目

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]　[illegible]集[illegible]の[illegible]　朱陸

[illegible]又[illegible]の[illegible]

此を田畑に雪の残りたるに彼れたる寒山
にれ立たる姿ハ花れなる景色を見たる
なり秋の夕に見て来れ残りたるなり
是の句の心ハ仕立無情なるべし

志川のかけ酔て蝶をとる事　峰白

白作の工みなるを無しで如きなる句し蝶を
取る事ハ猿さへ無しと仕様に面白し

鹿ちか細からふつる朝ぎりにけ　千里

此句附わが骨を折たる句しおもしれ
蝶を現在にしたる句に付て蝶を取
事としるを風物にして付たるし鹿ちかハ
林霊の下草のものゝ蝶とる事にしるす

ほ沙魚る標裡に苔ひして秋すゝの
秋の心具して鹿ちかる秋かく眺る
ことわりし一句表てく見ゆるし

兀さる眉をかくはきぬし　翁

朝顔とも云ようきぬし常の事もなし兀る
眉と云ハ額ありして志とけなき体も
伊勢物語に風に鹿ちかる月の大きな
ところ此句の餘情なるんや

けしは咲て情に見ゆる病みたる　松風

兀る眉と云に先長さる人のおもかく
て然の都なしとにひるて行くる体と
けしなるものゝかしこ上つるさの花にハ

中れしを手取りて白をかさうけるを見
おのの白うし柱あるものをのゆ〳〵しひおの白く
ゆかるゝ

紫の風よりを節きゝて入　コ齋

夫筆切をきて紫文新〳〵おの氏家と
〳〵き武士の古左者とものを孫〳〵き物うり
なと尺付き作し大根が物作なとの作
を取り〳〵きの白し底ハ中特ふる人の髪
取く小姓子入浦舟をえ付きるなとの
なめ〳〵ものんされとも手なるをとふ
子ハゆるけ子解のこまり付るを家
とや〳〵きの

かゝ代ゝ〳〵ものこみける狐罠　廿角
敷うけのゝ〳〵人何〳〵しと〳〵付る者の
もの紀氏懐をめ付く見ものまに
いひ拾ゝる白陰心を出〳〵
ゆゝ出月夜のくもるかゝうさ　文鶴
その和の義浦ゝ作をこの〳〵付る傘ゝ
雲海ゝいと無ゆゝ者の月さえと
尺ゆゝ知かもしゝ狐罠とこゝこの
子仕作ゝハゝゝ〳〵

石の戸植鞠子の坊子ちすみて　孝白
雲ハ主雲ゝ主ゝ外子氏冷〳〵
出ゆゝものゝゝ鞠子ゝゝ不

男ハよきころ青ハ豆ふの出し也 張子
江戸の備十市の里芳野の里玉川なとく
附きて漆器手使ひて作る物也是ハ刃にの
源氏重宝不二角更科と付候てを高
時ハ百の形容よりてよく人形を是ハよきす
むかしはやりけるとし

それ三代の刀うつ 張治 李石
はる讃中の寄特に藩にてハむかし人としい
作くて傍正の宮和とお物を使ふるあり
石の戸樋なとにて張治か作き多くあい
よきころ張守し湊き銘清水なと云ふ
ひた剣をと求へおもしろきひとつ一句感情

おほよそ三代ともみて狩野骨の張治の
名人といへるも

永禄ハ金もとしく 松の風 仙化
永禄ハその時代をいへるも張治の名人
おほくハ好みものにてその又さしと
いふもお白きのもめつらしの作る是ハ
よく心を付て数味すへし

近江の田植美濃手取りむ 朱絃
古代の作も金もしとらよう昔をと白と
昔ハ物ゑゆへ今も心しきるの
人しら持へ作る美濃近江ハちうのこ
まし田植なとの風体をきよ思ふへく遠くし

疾走くゆめのうちのきんぎょ　芳童

はるかをとこ今をさかりの白しみづをはしる

一ぱいをうつしはるかをのぞきこむ心

はるかしゆめのうちのきんぎょ走てとゞまらず

舟子　夏の海　廿角

みなみ水をはなれ海なかにうかぶ船し

こゝろ夏の海なかにうかぶ船

うけぬ船ゆく夏の海をゆく人夏をのみ

さしされバひとりあり物を云の白こゝろ

よるべ〳〵又此世の逆士し

筑紫より人の娘をたつねさく　李白

はるの趣向句仕れなし異見さく船

中に風流人の娘なと空さく夏の海なと

さきこゝろ化元亥千新し蕉味さく

松海の伊勢女をこゝろ大い成ハ成句井の

夫なと空取こゝろ心さくと初のつゝ花

空人のさくに流人伝て詩はかゝ

陳勇の走こゝろ初めい初ふ　松風

此句はかゝうと付れもをちの春を

こゝろいひ粋こゝろ句こたんし手紙法

こゝろ対を天丁一百よゝ仕初こゝ迄句

不芳

待こゝのひの隆ハ隋こゝ芳の中

陳勇の走こゝろ対ハ親こゝ走初かゝ走なと　角

[illegible]

友よふ　蟾　仙化

友乘蟾を伐ぶく行る仙むの体
物淒きうきたる香白こゝ[illegible]
ようけうきあるとうもやれ侘
あるを思をはしくひら
雨さくていやしくうく鼠曇　口斎
蟾の形とうきの体をこのへう

[illegible]

鄙　陳の　寺　化　峯白
鄙の体はいとこ淋しきなるの門寺を題す
洞なと歩うみくる体をすし墨はは二年
と附くうまくて作者の墨をこのひとく
理石寺千　物ゝふ　武者は　六七　蹄　芽童
大自然を思て海を軍ゝられる体ゝ民
屋寺中ゝ押上く狼藉ゝ〳〵乱れの

されまどひ行脚の中にも松島や
ふり安永の心を見有るしてひ合をもて
句をえらぶべし
何し世の牧に浮世をしのび
其句の勢をよく覚えて世の真体
もろ武士の作をひきしたがへる句の
まどひれ句の姿と世の句の新しきと能
聴取りとるべし

其角

野の一句に多くの句をも有りて見て
たんし隔離きひしく殊なる所を取
またその作る世の人の心得べき
すこし多きひに其野の一句を世俗の

文鱗

よみぶりある家の中に入る句の新しきを得る
まことよめる句の見えたる所を見て一句を
仕立ても世俗を存分に用ゐる所へ行
作れるも俳諧は童子の詩をもよくし其
あらざる句は作れば心をつくも見る事を幸
ある句の俳諧に用ゐるその先祖と
秋の館 秋 寛むなし

李下

後によの家をむかへる句を月夜に絶
せひたくのりて見向
稲妻み木のを花のところとき
たうしつ詩に述のりし秋の夜のあれ
花すくのり森の木百句編む本を稲妻

峯白

おもしろし秋の秋のたそかれ　松風

信もあるよ聖賢の道を分
此句の付所一句の文義を見て物淋しき處の
秋の夕暮を思ひのしとする所が聖賢
作る句を能新しく俳諧の中の一趣
なれどもよく作るべし

人のまことよる物をとうつおり　楊水

此句又秀逸なり聖賢の本意よりよる秋を
大悔の夜すがら作りし先聖賢は
世の中に作るは世の人は千歳に物を
かわきて作るを此骨折して左句の心
を知る尤も感味すべし

酒もりのふくむ金山が洞　朱弦

金山は京都の大坂しおりをよくうけ
さらに住所に付所好らし
右芭蕉翁の後に萬世の俳諧の宗師にて
あし新しく八句を翁し玉ひんやと付けれ
ば無千歳にして一派の席翁於為
後にの五十韻にして筆をとらしまふ

三

此句は武仙を名付けて付にて出を　廿角
京て汲まる醒ヶ井の手　ゝ鳥
玉川や水のしらみ尽さ　翁
は汲しまり代々　仙化
卯の花にも精すもよ見ゝ仙　芳重

竹うゑこのをハ雀かくれよう侯　勢水
南むく菅屋の柵のあきしを　不卜
親と樽をあけ屋のつれしを　文鰈
餅化るあらの度ぶをみ合を　根風
糞を買ふ紙のこゝろを　菊
庵のうゑをあるぬ人もなつめ　朱泣
みくき男のいひすむ月　不卜
篷の面後七里をぬけむ　李下
行鈍河内のあれ川つゝ　勢水
三　名なを米つくまれつゝ　世角
梅ハさうゝ社院しを閉　李下
二月の蓬葉人もすさまゝや　コ雨

姉まゝ生れ産むうの新　芽童
胸ひゝぬ載の袖を織うる　菊
ゆゝしひゝくゝ菅の新さ　根風
芽の紫ときのうゝみ者たゝ　文鰈
木魚芋ゆうゝ山うけすも　李下
因をやうし体もゝ新月　コ雨
萩さゝむゝ長ゝつれひ　不卜
四月末と先手をはを　李下
うゝうゝのうゝん安ハ蛙すかゝ　朱泣
三度清芽時のさうゝけ　仙化
ゆゝゝハ去のゝめくつと　李下
名　契情をゝれぬきのゝふと　文鰈

[illegible]

[illegible]

芳室
岸白
口角
映水
仙化
不卜
李古
柳水
文鰈
多喜
映水
史角

[illegible]

口角
仙化
芳室
柳水
史角
松風
映水
不卜
岸白

[illegible]

吉庵

城ある夜をさそひこす嵐
かぜハこすず樹の葉掃墨く 其角
すしとはきる一瓢の酒 嵐雪
月うれく煙火あるを海の上 翁
咲の屋子炎炉きのおと 東
生塊子給杖をく明ぬ酒 壺
宜位はくくく美女百々きく 角
提灯子大塊蝦の寸ゆく 東
出あるこいす宝の材木 翁
寄ゆくハ尋る尋ひる寄の宵戸 角
清ゆ杖ゆ子ゆ後寄物えし 壺
仇人のあ子ゆ氏を於 翁

行子付ゆくゆ巣寄の 壺
峰遠ハ年ゆもの犬の形 壺
軍の加減ゆ ゆき氏おひ 角
士ゆに心子ゆぬ月も 東
陣生くうけ地夷の帳合 翁
面僧ゆ行者清ゆはゆく 角
小姓清ゆく葬 紀の中 壺
丁寄ゆゆゆく法戸の姫蒜 翁
袁ものゆくく法戸の姫蒜 東
袁ますすくの ゆの材 壺
ゆらくふやきし竹の夕うけ 角
寄加ゆ花食ゆめお飯え 東

毛穂を　しき立面のたてまつる
ちらばる庭のおちば十首　東　菊
ひさしの月　雨　月
きりぐりいろいろの浮世のあけぬる　菊
草花くさまくらの筍の雫　雨　東
つりとりも南部の後方の片隅に　雪
四の緒を引きそろえる家のこと　角
鼻つまむ屋ふう矢の生　青　東
ひさしまけぬるみきれ　菊
縄まれる架本の花もちぶ　角
おもふ雲のうけて出まき　雪

三月廿日

花咲き七日部屋の物まとうれ　菊
憐れ世に桜わるる　細橋　清風
足袋未を車まさ祝　雪白
米一升を　の　雪の戸　曽良
角角を踊ハ家ふ　柳　口齋
枝大ふ　柳の葉を苅　芭角
墓石ふ　ハ出れかふ義を　風
内かれ　角ふ　白
既子を　の使　良
一花の　ふ　菊
松ふ　ふ　角

[illegible]　良
[illegible]　富
[illegible]　白
[illegible]　角
[illegible]　菊
[illegible]　風
[illegible]　角
[illegible]　白
[illegible]　菊

[illegible]　良
[illegible]　富
[illegible]　風
[illegible]　角
[illegible]　白
[illegible]　菊
[illegible]　良
[illegible]　富
[illegible]　風
[illegible]　菊
[illegible]　角

車を下りて春の休らひ　白

和漢

彼風に吹れ弱るゆすみ　菊

葱菜蝿避烟　〃

合歓醒馬上　〃

かさゝぎ小田の苗代　菊

月代見金氣　〃

露驚添玉滴　〃

弦地ら物古年くる秋の中　菊

幡を左右に分る中　〃

望菊疆倫嵐　〃

古寺秋子孫のるお魂座　菊

星のゝぬ首のゝ乙る板の橋　〃

乳をのむ係子何を寄足る　〃

舟鍋風早浦　〃

鐘絶日高川　〃

鳥ゝゝゝ子苗の泥子ゝゝれ　菊

食ハすけぬ牧を大のうみ　〃

託敬三社本　〃

韻使五車塡　〃

花月丈山開　〃

簿を杖つくむのゝゝひす　菊

蒭銀鮎一寸　〃

[illegible] 菊
[illegible] 墨
風猿喰 早乾
[illegible] 墨
肉を焼 [illegible] 菊
霧 籬 顔 孰 眞 墨
震 浦 月 潜 雪 菊
[illegible] 墨
[illegible] 菊
山伏 山 平地 墨
門番門 小天
鵜鶴 窺 水鉢 菊

[illegible] 墨
[illegible] 菊
隔 谷 伴 畦 仙 墨

[illegible] 沾石
[illegible] 菊
[illegible] 上 露沾
[illegible] 菊
入身 [illegible] 武者 [illegible] 菊
宗の [illegible] 沾
山 [illegible] 菊

花とひまやと酒造りし　菊
みのるまにまに月に鶴の声　沾
きりぎりす砂糖の塩を花こそ　菊
縮緬を糖の粉ふるひて　菊
みしれし数を直ちかんさし　沾
洞ふるふ形代のつみをとがの　菊
何と焚火とられ蜜ふる　沾
椿の月ひとつの夏を信やをて　菊
酒法ふとめし素の義うみ　菊
木瓜の花の碓やゆめらん　菊
四十雀ふる思ふ夏しも　嵐雪

青苔や苔の乳八星月歌　甚角
筆紅梅をたるむ　弦　今我
青苔を苔をのゆるとおゆるとを　昂菊
山ふる尺ふる　松風の河　松風
ひとつ出るとおをとゆるり　彫棠
故きをちすり秋ふるふ　横几
有明すくるふ鶴の刻みまの　菊
帆を八合ふ椿郎の夢　仙化

吉代や雉鳴こもりの音　菊

茎の露のくろみかゝる蜘の巣　其角
漆せぬ琴や作らぬ菊の友　素堂
葱の筍ふく秋のその圃　翁
餉よく敷の目くるゝ月を見て　沾圃

貞享四丁卯

旅泊に雪をころして芳野のもとかな
きんすをやす　露沾
時に秋よし妙に見えし旅の空
夜もとも妙に風の月　翁

山のけふ苅田の稲のみえにて　沾蓮
武者袖につゝし早川のすゞ　其角
笑ひゆく雲につゝめむ横河くれ　露荷
ねろきぬ窓に枝のそく松　沾荷
かしこまの縁を出ぬかさかけて　翁
みすすめてし神山の氏　露沾
見物の汗を出しむ猿の声　沾荷
ねし戸のよみうつくほ　沾蓮
行尽す五天竺のしの店見れく　其角
鼓呼ぶ作り隣迄ゆゑを皆　露荷
恵みをたつ鐘舎山の松く深し　露沾
ちほう枝をみほろ風業　翁

月清く白雨洗ふみすれ　蝶　沾莚
雲をつうふく鯉てくしける　女角
花咲て人くしまあらぬの庭　露荷
新板　拾ふ山吹のはし　沾荷
二作法やたらの陵のまさえて　露沾
盤ち　うくすの為　沾法
橋の築を糸又蕪をも殺う　菊
牛子ゆうよ嘉のさうつき　露荷
物うけハ忍ひやまよ角くれて　沾荷
琴を　ゆすする　板のひさうゆ　沾莚
丁をいて　神脳をかゆく　秋の　露荷
丸梅　拾くよ　尾上くけき　露沾

風の　三　蕪　張の　ひの　名へ　沾莚
大口　を　こ　う　夜の　を　を　紀　菊
くも　ふく　雄の　むれ　を　木　ま　ひく　露沾
ひと　すく　れを　ひと　くく　す　書　沾荷
一　梅の　紀念　の　恵　蕪　子　玉　露荷
ゆを　取ゆ　ゆ　敷　の　ゆ　ゆ　露沾
頭　つけ　て　張　て　ものふ　男　つき　沾莚
時　時　を　の　ふ　る　庭　物　子　の　沾荷
猪　織　蕪　の　ゆ　し　き　の　ゆ　き　ま　て　菊
梅　の　を　の　ゆ　し　き　の　ゆ　き　ま　て　桃華

同

江戸さくらゆかりうんいく叶而　濁子
養蜂の事ゆへ　月　菊
貝ひろひしゆく後ゆく行さ　嵐雪
酔　こく八人の肩をしつく　其角
ふの賀みいてはもしらや紙父ゝ義　菊
松松　菊　秋蝉　の　寺　子
池の物　こ　さ　めぬ　姫　角
みかと入帆の尼ゆる　松　我　雪
奇の本を画ふのすれこる　蓮の　子
妹ゝかしられ白梅やさき　菊
記念こふ袋ぬきれれ　雪
雪を点きく室の新　子

はのふおおふはしと物こ　菊
二秋ゝゝの笠きゝひ　雪
一十三の生涯をとゝむ　子
苗代ゆゆる雨ゝゝゝ　雪
蛙の巣のいゝりもゝ　菊
秋夏下ゝる　月　子

同

冬京や人ゝこゝ市の物　濁子
晴ゝゝふ入ゆひの雪　其角
手の貧信ゆひゆく後ゝ　菊
火をたく舟の星ゝき雪　仙化

淋しく松杉しろき筏の月　松風
かさしにおんすゝき一むら　二嘯
ウ
左刀持る音のめ探しかみゐる　化
末の翠簾を淋しむ珍客　子
前夜友引ば花茅薪て　角
う継しと餅ずいらこ揺茫　風
揺るゝ枕ずさくら躑躅　化
浄あ合　田なしちきる夜　角
加茂川の氷のれを鱗の水々かきん　斎
萩花する帯なの秋る　翁
躬の峰から様つく夕かくれ　文蝶
生を粉あわず月み深き娘　子

花のかをもえ八の長とのしつされ　李六
二
桃ずあらさこの一かの酔　風
翁のすみ翠君を流す舟をくさ　翁
詞のうみと結ず護を気　角
松島や雲居の庭に酒を飲　六
心八媚ずいくさきの孤　斎
四の時花ぬいきのさしくさ　鱗
その化ひしけ納豆きる旨　翁
千里は底の鳥ず角入て　子
行なのやひきいろ茅鏡苔笠　化
三み泊あや蛤舟の貌よりひ　斎
あのれず続る切霧おすけ　六

月入宵電鈴る蕃すこく　子
てゝしの袋を荷ふ楚来　菊
塚のゝ女宝のゝむ秋の風　角
邦を軍ゝてゝゝんゆく芭　斎
花のゝくるゝつゝる張つゝく　化
すゝ餅をゆゝすゝ月白実ゝ　江

十月十一日鉢子会

旅人ゝ系ゝ塚ゝむ初時雨　菊
まゝゝ山茶ゝをゝ有くゝ　由之
鮒鈴の宮ゝ参ゝたのしきゝ　芭蕉
粮をゝるゝ山うけの朝　松風

かけゝくゝ芝生の家ゝ涼みゝ　文鱗
新ゝ家蓋月ゝ華ゝ　仙化
中の秋西二一走帰ゝ　蕉笑
鮒てゝゝ送ゝ海紅　釈水
祈酒や次ゝ水ひゝき波のひゝ　全峰
影ゝゝ秋ゝ月ゝ若松　蕉雪
風飲ゝ月乙女走ゝの月ひゝて　執筆
和月の家ゝ拾ゝ花波松　菊
鮒鈴袖つゝゝ宝殿川　之
等一面ゝ鉢ゝ橋杭　角
ゝゝ如里ゝ雑をかゝ　風
月ゝや信ん泊涼ゝ蛍人　鶴

葛飾郡市川の里に
住ける人なり
化峰
菊
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]や家居出の友千交[illegible]　水
[illegible]　菊
[illegible]　笑
[illegible]　[illegible]

[illegible]
旅人と[illegible]旅人の白を[illegible]　如行
[illegible]　菊
[illegible]
[illegible]　桐葉
[illegible]　行
[illegible]　菊
[illegible]　紫

[illegible]山[illegible]村の雨を[illegible]　行
[illegible]　菊
[illegible]　紫
[illegible]　行
[illegible]　菊
[illegible]　紫
[illegible]　行
[illegible]　菊
[illegible]　紫
[illegible]　行
[illegible]　菊
[illegible]の百[illegible]の竹　紫

芭蕉翁不快にして止ぬ

雲海寺高弟業言庵より飛鳥井雅章卿の
御懇望の句を乞しを和す

翁

業言
知足
如風
安信
自咲
重辰
信
咲

陸奥の東の
翁
知足
ふるさとを
一ツ
ふるさとを
定
数々の
無
の
酒
翁
秋八
月
風
翁
枝
お
樓
作
少
足
こゝ
風
作
足
翁
咲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

用行ものもとめられる女　舟泉
寄合おハ山ものみてあらみく　執筆
千餐の名はたきもよ　洞
えもしまるかをまるの屋の庭　梁
波ものもとめ能ハ物ほしたる　水
門松の前尺ものハ人ハものもの　子
茂子面白の峰の鶴高　翁
能行ものの宿をもの博多　雲
和の物ものもの解つもの月　人
ものもと律儀ものの待れつる　泉
雖ものもしものの知る黄なる　洞
二尼寺のまもの面ものもとも　梁

瑠璃ものけものハ人はきもの
久のものの新ものもつく久きよ　雲
布坂二おものもれもけき　人
ものもの妹をものの人の黄　子
食ものもとものもの法ものの　翁
加之の中をものもものの物の秋や　梁
ものの数刹子加茂川の名　泉
塔のものもひとくの名ものの法　水
浮ものも財の秋ものけものの　洞
月ものの小孤物をけものもの人　人
物をものの黄をおものの秋風　子
三　松をものの仲ものの方の中　翁
　　泉

山ひとやむしろの秋の夜　同

きてうけてとぶかりがねの数はいくたり　人

猶うらびてうらぶるる虫の音　水

何ともなくもの思ふ秋の夜　安

蓑の中うつる月　山ふき　橋

菊

早晩の閑を大とせんかな　安信

紅葉山の理　大

紅葉山のふもとの猶ものすごし　自吹

赤ちりの猶ものすごしつゆの秋　知長

うつるの秋の夜を月のかたのうし　業言

一里の秋の毎のうしの川上の　如風

和さまめて問ふてひこの　重辰

市ふるさとの月やをひ老ひ　宗

生ひ残れる秋のみさをの　定

菊の白の寄るの秋のいとき　信

有をなる　今酒

寄酒の秋　菊

俳諧の物すること　吹

発句の物　風

啄木の物　定

笑ふ屋敷の時をうまれる　信

花　辰

山ちかうもてみとりたいけし　足
二条殿元は御ものうちうち御
角ばり屏風化粧ひまる家　菊
ものかたのうちとりさく帳の内　宗
御ぐしぬぎ給ひ　枕のうへ　御
弱ゆくて酢ばかりさい慰ん　位
庶子ゆかつし　京の能無　足
式ばらはかりかくらさく　風
御舟宋の出る川　は　屏
探午る頃夕まぐみ　菊
笠もとりかの笠火のうへ　咲
御身ちかの里の勝の勇ひ　足

すしきたるかの　荊　御　ひく　菊
弱年子ばかりきたる時の宿ものす　屏
ばうねゐ　ふゆ　ものして　咲
氏人の庭園　ばかり　花さうう　立
警いくも紙の　きたる　ぶる　風
用をうくるあるとつく　山の方とつく　位
かりうおの手箱をかるふる　執筆

十一月廿四日みきの有し遊園は
御結ふるひ猶さ　菊
慶長元年鏡ものし　の花
石ーく　廻はまゆる　曉　桐葉

対しハ松かさ着る風止る　葉
糸地帰る山のすけろひ　菊
秋ゝ花ゝ有ゝ夏ゝ雲のひとゝ京　い
節ゝ手ゝ引ゝ引きひのかゝ　葉
肌ウ立くゝ有ゝ秋をゝ　い
こゝゝ賢ゝくゝ引ゝ　菊
ゆわゝ強ゝ夢ゝ秋ハゝ　葉
砕ゝ風ゝ焼ゝ　菊
古物ゝ人ゝ麦ゝ　葉
掛ゝ物ゝ　菊
松ゝ食ゝ　葉
習ゝ　菊

紙中ゝ物ゝ　葉
泥泉ハ人ゝ　菊
武蔵の女ハ　葉
縫ゝ　菊
新ゝ手ゝ　い
ゆゝ　葉
多ゝ一里の　菊
ゆゝ　葉
初雲いく　菊
勅ゝ　葉
鶴ゝ　菊
例ゝ　葉

新四うむ松すも似るまとーを　菊
ひかりの舞はお庭見ある月　紫
秋山の外枝と花るを奏しに　菊
花一瓶をかりかる萱　紫
優婆塞の御前つとむる文殊を　菊
美人　起す秋いかりる　〃
恵家をめれ紫いかり雨の音　紫
手桶のほる。切生たるあふ　〃
面白の下紫をあるかも咲を　菊
春の夜を法をみ月ある　紫

ゆゆしき等の頃か菊　如風
侍士の菊と梅　菊
沙女の志ほくとたるを　安信
陽を欲をうつる月　重辰
矢中れ知ほそ長き菊の風　月吹
ちーことはすたこれ篠　知足
ウ等のまはをかの家遠て　業言
音うかつけーひよ浮し　信
本孫様をれ海をーは　風
ちちんん佛の手ちちつく　足
寺ちををけて古の山菊し　吹
放てっ部の時うて　菊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊

笠相さす人もゆるしたる堂
舟に樊火を入る春の紫　聽雁
又六丁布酒干さるかぞへ　如行
柄もなくつる蔭の水ゆく　野水
ゆるやかに流るゝ如月の海棠　越人
鞍くしを拔る紅の枝　義孝
幣に手を合て羽も秋ぬきて　執筆
食ぶを編くさぶ酒をすゝめ　菊
神主も岩八大うるをとゝ　雲
塀ぶくすく藪のこい苅　竹
ゑくしと是仲の法子鄙弱さ　考

法ゆかしもとめ　念佛　人
思ひ入戸をゆるして牧を出も　水
うきうきと花つる月の傘　竹
長き歌を注ぶるやみの宵ふけ　人
人に抱ぶる紅をゆうぬ　水
蓑の賀に引る物を敷ぶる　雲
手まく梅を載る幕串　菊
見ぶる人くのわかももふるて出のち
に物きんといとみゆひて
ニ　こゝろ保ぶ手の白は俗紙に　竹
放蓮咲ぶ人は真さよ　考
ゑくしと一翁入しで用の笑る　人

書もう南の踏　通り　蛍
こ後つく〻ハ〻ゐ紫菜の蓑と　水
そ見ゑ〻しみの虫　竹　父　菊
姉袋破好次弟の紙の衣　竹
桂　為の　肖　人
ひとりとして高砂文言を考ふ　愛
歯戸行きて通ぬ　菊
法して考へその為の家を作し　水
所〻姿　竹　踏　人
書の中紙茶釜　考
代〻屋　ひ　縫　愛
旅衣尾張の　れ十義　菊

富士画　文　竹
帳　屋　入　花　竹
新　所　竹　人

十二月九日一井亭無
桂　為　海　自　菊
庵　は　つ　義　屋　一井
ゐ　て　行　楽　載人
ゐ　を　為　昌弟
武　海　仏　音　竹
琴　竹　の　上　仏　ひ
屋　ゐ　ハ　湯　火　楽竹
越　ゐ　ひ　ゐ　東脇

みしらぬ　菊
はるをまつ又　野
乳をのむ　人
麻布を　白
萱をとる　芳
久立の　竹
るをゆく　脇
小男鹿の　菊
鹿ゆくに　人
布うつに　芳
をしけを　碧

錢別

対面して　岸白
大焼の　菊
松風　俊を　人
釣舟　溪石
鶴ひとり　コ齋
菊の　書角
面をゆる　卜千
鶴　嵐雪
鶴　白
鶴　菊
鶴　石

同

[illegible]

一羽 わうう[illegible] 一もと花

[illegible]

回井の[illegible]

月わるく[illegible]

秋風上る門の半 藪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松江

菊

曽良

依々

泥芹

水萍

風泉

夕菊

若翠

牧華

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いろしの雪ふるとてふる月ゆきて　嵐雪

樹をよこたへてかれたる千かれたるあ
秋をこそ矢てふるのさし敢　菊
月ふんと沒ひなの手ふるあさ　曾良

とを銭箱ふ人を伏三河五千
越後ゆ出し人ふれハ侍良吉時ふん
ふ涙ふ法をけふひ手ふ
燒食やいろ古のふ手ふ　知足

砂ふ手ふ　菊
松をぬく力ふ果ふ　越人
いりの月の出ける惠ふ　足
物ふ中ふ手ふ　菊
くまふをかふ鶴歩の月　人

安思尼子旅ふ
菊屋や更ふ旅ふ　越人
ふふふふふ秋ふ　知足
海士ふ手ふ鶴ふ見ふ　菊
明戸ふふ為ふ浦ふふ道　人
高ふふん　足

夢義の貢ものと思ひて年を菊

[illegible]雲定まる

菊

[illegible]

自笑

知足

[illegible]

[illegible]

[illegible]

麦畑をくりむ作家やをけむり　翁

みそとさうりに山菜咲　越人

屋の上に雲のむれの宿をして　野人

いさゝかハまことを持て家をして　左見

祝の名れ初る　翁　起

同雲の猶ふる小雪高く舞　怒風

三十年来もまれ無りし　野人

何ぶしの行うハ身の法にせむ　文考

かや鉢せはやりてけけ　故江

第のむさゝを雪の枕うち　翁

むのしるもれぬ草庵の高　起倒

かちあるは村家恨を宿てうれ　翁

角のとのゝ男生ひるもの　去芳

貞享五戊辰年

伊の本れ花をもゝ山うれ　翁

都千多をふくむ雲　蓋完

主浦の家の猶ふる紀て　又玄

二葉のすゝき枯残りたる
野の末に秋をきめと引つゝみ　平庵
秋ゝを見ハ長き秋の夜ゝ火　鰐延
鉤（ウ）の鞍ゝ蛍のかゝふる夕ゝ　清里
門ゆゝを見ゝ入る田の中村ゝ　光
山法寺ゝ信濃ゝまれ給ふ秋の汗　翁
炭ゝ屋ゝを　たのむ出ゝ　庵
女のみ古ゝ知ゆ鎌の破ゝ　言
横ゝ射ゝ　つゝ　海ゝ　翁
ゆゝ　ゝに　ゝ　ゝ　迹
陣の仮ゝ　ゝ作の義ゝ　野人
白雪ゝ　ゝ　ゝ　光
ゝ　ゝ　ゝ　里

ゝ　ゝ　ゝ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]は[illegible]の[illegible]
いとつよく[illegible]実て本れハ華枝て　孝
神中の[illegible]れに神を[illegible]く　有
実の[illegible]聖の風[illegible]を[illegible]ひて　菊
幽業集巻之[illegible]　宗[illegible]の白の[illegible]華て[illegible]て　字
[illegible]ハ千さ神[illegible]文字て[illegible]の海
[illegible]の[illegible]かて[illegible]を[illegible]ひて　菊
[illegible]食[illegible]　[illegible]の木の中
聖[illegible]て[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　菊
八[illegible]

如行

叩端
閑水
菊
桐葉
東籬
工山
桂楫
孰華
行
端

[illegible]の[illegible]
[illegible]て[illegible]れの[illegible]
豊蕾の[illegible]を掃[illegible]て
人の[illegible]の[illegible]の[illegible]し
有[illegible]て去[illegible]の加減[illegible]至
植木の[illegible]て今に[illegible]故
[illegible]ハ律[illegible]かて[illegible]さ
[illegible]て[illegible]ハ[illegible]を零[illegible]
簾竹の虎[illegible]て[illegible]音[illegible]
[illegible]て[illegible]ハ[illegible]
[illegible]て[illegible]ハ[illegible]

[illegible]の橋のかけつるもしら[illegible]
思ふ[illegible]中[illegible]
かくさは又の秋[illegible]
陽の東ハ[illegible]
一里[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

輝

菊

[illegible]

知足

相葉

叩端

賛音

自峡

[illegible]

[illegible]

重辰

長君の雲子嘗を拾ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊

足

紫

端

辰

足

風

紫

立

端

菊

佐

[illegible]

菓子[illegible]本[illegible]

長屋の[illegible]

芳文

同じ月十九日

[illegible]池の井[illegible]屋のむすめ[illegible]

[illegible]子

[illegible]待[illegible]

[illegible]の大きさ

[illegible]人の通[illegible]

[illegible]小家の屋[illegible]

[illegible]烟[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の風のよ[illegible]

[illegible]

[illegible]人の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

然玉柳餅

文迦葉百翁呂京巡

笠然人玉百呂京巡笠文然

[illegible]

七月十三日写海城室

[illegible]

菊

[illegible]

重辰

知足

[illegible]

如風

[illegible]

自吹

[illegible]

足

[illegible]

次

菊

[illegible]

[illegible]

菊

[illegible]

作　是

牛歩

作　是

吹

是

翁

作　是

吹

作　是

吹

作　是

翁

作　是

吹

作　是

翁

作　是

吹

作　是

翁

長虹　菊子

一井　越人

胡及　嵐蘭

菊　虹

子　井

人　及

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きしとみくなりれとも色をかへ行
ふるこ様子指さしなし人及
い戸をみくめるる色の秋の寿芳
早咲の梅と紅梅のたくらち菊
嫁きぬ　姫の頭ってあら除
ものひきすうきるる寸法の松及
諸きやきをる松のもしし火人
ゆやきぶ松をまきをを後をて虹
何を時ゆくはきたきゆ菊
菊子ふる硯の巻を鉢を明除
すもれさうかるまのの芳虹

元禄元　九月改元

いろ〳〵の菊とひとつの白ひるる　叩鶏
松のひくきをるの秋　桐葉
赤丸子をの赤をの　菊
色めをやきを人のをえる　東嶽
菊子れ咲ひを後をををを　二山
松咲〳〵松の色をあるゆ　閑水
叶ひをを考をを　狂華
芳子ひをあるて作ひをん　鶏
被をを新子寄やを村　紫
叶髪刷んをは安きを　菊
精ゆを金村をる和く　庵

[illegible]に茅きる山　山
面影の懸れる水　水
硯をさそふ紫　紫
青々しハ行をそひの草の花　菊
まゝ用の愛ぬ濃のらくまゝ　菊
菊もを見接樣をおれ生　菊
菊ゆく蟬の方くるうる　水
青しとうとぬ石の毛深うし　山
發てゝ霧る世橋の上　菊
ゆ雲を強いもゆぬ蓋沈　紫
ひ水しうるきゝの夫ゝも　菊
追物ゝ木幡の方をかうき　菊

ようゝ蔵おろしつ　山
いそく結を寄し樣る朱　菊
女ひ光ひ方と菊る　紫
まゝ月ゝ結て海蓋しける　水
宗ゝく碧の走みてゝ　菊
水川を寄ゝ走ゝ宝ゝ　菊
鳥ゝ生を　菊
奥深き事を惜れハ名若　紫
ひ姫の大ゝ月おゝ　菊
くまゝこのと思ハ来ハ海ゝ　菊
華一ゝ花ゝ赤の一対　菊
結ゝ走ゝ桃深海の芳しき　山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

約束の通り深草の板　苔翠
吐夢と名をいふ井の雪ぎ　菊
ぬりけ仮名のいろは習ひて　友五
南の方より雨降りかゝる　久菊
ちもきくとのうく山の茶うう　眺芹
ちくさく花めかけのさひしくて　信之
女房ども花ばかりまもるも　人
鶯と物のうすすの毛の友　五
雪ばかりさえけるつきくと活　菊
まさ出ぬ雪の戸ゆて恰よまま　翠
さし殺しうる也菊の雪　菊
秋風やまを打ぬ月の名より　人

名の高はあるしき月　依
ひ月ちおくて一面詩うう　菊
仲子は尺う数慶の詩　芹
名人の活ゆ中なの菊の雪　菊
孫さ生ちうう雪さ風　菊

涼川の秋

月ちうう数郭まのかうひあ　我人
雨さ山ちふ氏ちうの月　菊
義ちうの月ちの霧屋ゆめてつん　〃
理をくうう活ちる秋の夕雪　人
新名の大さ五石をうう　〃

[illegible]ら帰る市人　菊
[illegible]ハくれ名利の世　人
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　人
[illegible]や[illegible]の法[illegible]　人
[illegible]茅の[illegible]と[illegible]　菊
[illegible]せぬ　命のゆけ[illegible]の　人
[illegible]かぶ[illegible]や[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　人
[illegible]の[illegible]と[illegible]　菊
[illegible]舟[illegible]　人
[illegible]の[illegible]を[illegible]て　菊

[illegible]ら[illegible]の紙[illegible]　人
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]き麦の[illegible]　人
[illegible]帳[illegible]十寸流　菊
[illegible]の[illegible]　人
[illegible]の[illegible]ひけ　人
[illegible]嵐の[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　人
[illegible]に[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　人
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　人

[illegible] 菊人
秋の風を荷きぬるはた引て 菊
さいしゐ[illegible]文字[illegible]本る 人
いの[illegible]尾庵の本[illegible] 菊
[illegible]もするゆの渡てかひなき 人
花の陸游義[illegible]
風の[illegible]

大通庵老翁追善

[illegible]かちやたてや桔梗の枝の長 菊
[illegible]ゆ[illegible]恒の池 名菊
[illegible]雨止て 其興

[illegible]の[illegible]に[illegible]物の[illegible] 友文
[illegible]洞の[illegible]ほの[illegible]ゆ[illegible]雨 素壹
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 涼通
[illegible]もやうに冷[illegible]ひく 胃良
[illegible]おもしぬ[illegible] 壹
[illegible]八[illegible]の[illegible]もむ[illegible] 丈
[illegible]つ[illegible]念佛[illegible] 嬰
[illegible]川の[illegible]央[illegible]高の[illegible] 通
[illegible]と起す[illegible]のけ[illegible] 菊
[illegible]の月[illegible]ひ[illegible]新[illegible]く 良
[illegible]子[illegible]を荷[illegible]ん 菊
拾[illegible]ぬ金の[illegible]秋の末て 壹

世理をうがちみをうけ一ぬの物　良
唐の紙箱の岩陸つくるめ　通
はかる小能を仕人屋川　正
二尺六寸の陸と朱さ六寸　嬰
島の浦くろをくやむひろ　通
章衣をむすぶ笠の内　菊
粉八木赤井松うさぎ　正
若生し佛一の膝を枕し　良
笠をおもひて覚ぬ　菊
帳柏子いりまもむ月の影　通
無しをめすむ茶の一株　嬰
義源寺世宗の信の戸をゆく　菊

月の雲代をうけ弼ゆく　正
注刻をうつ岡のうれ　菊
東良手も砂ぬ拍ぬ　良
酒をいる牛八人手情　嬰
巻をも軍ぬ庭の砂ひ　通
うみゆくる洗巻の釣ぬし　正
坊子ちとくかふ笈摺　菊
清き紙子貴を納るものつけ　良
書をうくゆく書の一対　菊

雪の袂八休下の作子茶毒よ　紘通

[illegible]うん梅は早咲　宗波
お酒まかの面に酒の食ゑて　友五
[illegible]ゆくも旅之の出　菊
[illegible]の[illegible]の[illegible]月　盛水
火を焚[illegible]さ一歌秋　貫良
[illegible]しと探初出の[illegible]　久菊
[illegible]ひきし珠数の[illegible]　水
生[illegible]付凡みくき人のうに和す　良
[illegible]うつ和やかうう　通
苦のさわさ寿もうきぬ[illegible]湯物　彼
夢のわうう[illegible]あうに[illegible]箭　五
不二消わひ[illegible]たうを[illegible]枕　菊

母の佛[illegible]後[illegible]
[illegible]棚に白[illegible]の[illegible]を[illegible]　水
濁りをまさす砂川の[illegible]　五
[illegible]すうん[illegible]ぬ[illegible]て　菊
砂[illegible]扇の骨を[illegible]　通
[illegible]蝶[illegible]き蝶[illegible]ぬけ[illegible]き　五
[illegible]ひうう[illegible]の　菊
きんと[illegible]娘の[illegible]の美[illegible]き　水
いや[illegible]お[illegible]　通
[illegible]の[illegible]　五
[illegible]の黄[illegible]　水
[illegible]白髪おろ[illegible]　良
苅[illegible]

嵐子　あとと　はし　はしら　ゑと
秋山　山伏　山伏　山伏　菊
うれ人　ふく　うけし　祢の本　五
ゆうれ　ゆを　ゆ　殿のいてうき　通
心を　けり　入　かられ　菊
文字　ひつ　ふ　六　ゆ　後の上　良
まふ　くじ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　通
伊を　ほ　伊　ゆ　ゆ　ゆ　五
るう　ま　う　く　ほ　ひ　く　家　水
菊子　菊二男　子　菊　菊
矣子　ゆう　し　殺治　の　ま　ほ　菊

ま　あ　ま　望　ま　ま　む　ほ　ひ　う　白　密水
う　て　て　て　て　し　海　の　殺　殺　通
き　ま　し　の　通　け　ま　ま　ま　ま　菊
ゆ　め　て　ま　の　ゆ　む　く　色
ひ　け　て　て　峰　の　梅　愛　和　有　和　友　五
郭　望　の　ま　ゆ　み　ゆ　け　ま　紀　實良
一　ま　し　子　対　ま　ゆ　ま　祢　ま　ひ　宗波
人　く　て　ま　む　殺　和　の　釜　嵐竹
ゆ　け　る　ま　ま　殺　ま　ま　雨　雨
う　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　久菊
う　ふ　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　緑緑
ま　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　通
ま　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

カ[illegible]すら[illegible]一俵　菊
放[illegible]れ[illegible]和[illegible]む牛の子の[illegible]　丞
[illegible]一隆[illegible]の稲葉　水
[illegible]の像を[illegible]の月　波
[illegible]む[illegible]の[illegible]の[illegible]　湘
[illegible]生を[illegible]本の[illegible]植[illegible]　良
[illegible]ひ[illegible]母[illegible]ん　通
[illegible]を[illegible]の里　涼
[illegible]火[illegible]打[illegible]　竹
[illegible]の[illegible]ん[illegible]　丞
丸輪[illegible]　良
一[illegible]の[illegible]の[illegible]石の塔　秀

[illegible]を[illegible]の月　竹
秋[illegible]　菊
[illegible]　絲
[illegible]入る[illegible]の内　菊
[illegible]ん　通
[illegible]　良
[illegible]の[illegible]　水
[illegible]　竹
悔四[illegible]人[illegible]　菊
[illegible]　通
[illegible]　絲
優[illegible]　丞

[illegible]の羽をうゑたる小枝　菊

[illegible]ねめ二尺の七五三を手の高
[illegible]竹うゑ[illegible]　雄掃の[illegible]　紙水
鶴うゑ[illegible]　[illegible]の小口[illegible]　[illegible]
村の地[illegible]　おくま[illegible]　[illegible]　篇竹
孤[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　宗波
紫を[illegible]　松[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]の里の菊[illegible]　友五
[illegible]　[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]
三味線を[illegible]　[illegible]　[illegible]　菊

[illegible]て[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]の情を[illegible]　通
[illegible]に[illegible]　良
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　菊
[illegible]　[illegible]　通
[illegible]　[illegible]　五
[illegible]　[illegible]　菊
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　菊
[illegible]　[illegible]　波

あんさんかうに為るちひさな　菊
男子和姉さすられをるるひて　通
涙火桶手鼻紙をわま
老めり代い軒のうて寸の皆けるる　五
まるるうう侍ほそつうきを　水
姉の家こ業祝二八をを夏に　通
めりみすうさく、疑さそし　良
甲笑侍涙自をゆうて渡海　波
家えるれうみわる和艇　五

糸を実よ梅ようれくの義　雑良

等の海手弥ようをけひよう　菊
さんしすすおるひす梅うれ　菊
寺のうをやくまりうれ　粽九
宝ちや糸ぶきを一すみ　劇情
二人しくいさ大る瓜　艾菊
戯物の麻のきれ端快ひを　菊

[illegible] 已百
[illegible] 菊

[illegible] 菊子
[illegible] 義稜
[illegible] 菊

林鐘十七日

[illegible] 寸木
[illegible] 菊
[illegible] 義孝

[illegible] 越人
[illegible] 秋葉

[illegible] 牧盛
[illegible] 菊

賀新宮

[illegible] 菊
[illegible] 知足
[illegible] 安信

風そ禁こそ行舟の跡　菊
板垣の家ふるさと漢文地の雪　足
和歌　初こそ紙子初時　信

ひとりとと初雪けしやきそ人　菊
黄菊のひとりゆく秋の舟い

本のくれ氏雪とそ紅葉山　蓼
よ紅葉はくくそ雪の夫　菊
鶴のおる里の垣根錆をさして　菊号

秋の村　村ふ花たてむ　越人
ふるの人の新ぬ　羽笠
みふとう舟の入うる春　舟泉

d